

2018年2月18日（日）学習院大学

文部科学省委託事業 外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業（2017年度）
日本語教育学会主催シンポジウム「外国人児童生徒等教育を担う教員・支援員の資質能力の育成
—モデルプログラム開発に向けて—」

調査 2 資質・能力に関する調査

報告者：中川祐治（福島大学）

調査協力者(インタビュー対象者)の属性

立 場	分散	集住
教 諭	3	3
管理職（校長）	1	1
指導主事	1	
常勤講師		
非常勤講師		1
教育委員会等派遣の指導員	4	
支援団体派遣の支援者	1	
地域ボランティア	1	
ボランティア派遣団体の運営者		
その他	2	1
計	13	6

インタビュー項目

- 現在の関わり方
- 外国人児童生徒に身につけさせたい力
- 外国人児童生徒等教育・日本語指導を担当する教員に求められる資質・能力
- 学校に派遣されている日本語指導者・支援員・母語支援者に求められる資質・能力
- 教員と日本語指導・支援者が協働して教育・支援を行うために必要な力
- 外国人児童生徒等教育について考えていること
 ↳半構造化インタビュー（40-60分）によって実施

日本語指導から自立を支える支援へ

- 支援のゴールは「さよならを言うこと」で、周囲に適応していくように支援するのがミッション（分散・教委派遣指導員）
- 「夢や希望を大切にできる教育」が重要（分散・地域ボランティア）
- 未来を担う子どもの人格形成に関わり、子どもの成長に立ち合えることにやりがいを感じる（集住・管理職）
- 一番身につけさせたいのは生きる力。日本で生活していくために必要な学ぶ力、自立する力、日本社会の中で生きていく力。子どもが、自分を押し殺し、日本人にならなきゃと考えなくてもよいように、その子もっていることばを強みとして、それを社会に還元しながら、自立して生きることが出来る力（集住・その他）

知識・スキル・態度

	スキル 解釈と関連づけのスキル	
知識 自己と他者に関する知識 相互交流に関する知識 個人や社会に関する知識	教育 政治教育 批判的な文化的気づき	態度 自己を相対化する態度 他者を評価する態度
	スキル 発見と/または相互交流のスキル	

図「異文化間能力」のモデル (Byram, 1997)

cf. このコンテキストにおいては、言語能力だけを教えることは十分ではなく、異文化間能力も重要である。異文化間能力を教えることには、知識を教えることも含まれるが、何よりもスキル、態度、そして自身の、及び他者の文化と社会に関する批判的思考について教えることが含まれる (バイラム, 2011)

7つの「する」力

- ①「知る」力 (学校文化・特別支援・バイリンガルの知識)
- ②「教える」力 (日本語指導力・教材活用能力)
- ③「見る」力 (観察力・見極める・想像力・発想力・多角的な)
- ④「つなぐ」力 (地域との連携・コーディネート・保護者との関係・協働・ネットワーク・分かりやすく伝える)
- ⑤「待つ」力 (寛容性・柔軟さ・忍耐力・適応力・長い目で)
- ⑥「受け入れる」力 (寄り添おうという気持ち・子どもを信じる力・心のケア・子どもたちの母文化への興味)
- ⑦「進む」力 (新しいことを学んでみよう・やる気・省察性)

知識: 「知る」力

- 広く浅く多様な領域の知識が必要 (分散・教委派遣指導員)
 - 教科学習の知識を積み上げていくための知識や技能
 - 発達障害に関する知識や技能
 - 日本の学校文化の経験、知識
 - 教科学習のねらいの理解
 - 日本語教育面の知識
- 第二言語習得に関する知識等をもって、第二言語としての日本語を学ぶ場合の課題を理解して、日本語の力を伸ばす力 (集住・その他)

スキル: 「教える」力

- 教材の選択の仕方や使い方を身につけることが必要 (教材活用能力) (分散・地域ボランティア)
- 状況 (来日経緯、学習歴) についての知識やカウンセリングマインド、日本語の専門性をもって、適応指導や日本語指導をして、教室に戻せるように子どもに沿った支援ができる力 (集住・管理職)
- 日本語を調整する、コントロールする (特に入門・初級レベル) (分散・教委派遣指導員)
- 日本語指導をコーディネートしていく能力 (日本語支援者、母語支援者、ボランティアの活用など) (集住・教諭)

スキル: 「見る」力

- 子どもを見極める力 (分散・管理職)
- つまずきの原因を多角的に考えられる資質能力 (分散・教委派遣指導員)
- その子やその子の周りの状況を見る力 (分散・教委派遣指導員)
- 子どもが何を求めているかを想像する力 (分散・教委派遣指導員)
- その子の強み、弱みを見抜く力 (集住・非常勤講師)
- 子どもの抱えている課題を把握する力 (分散・支援団体派遣の支援者)
- 子どもをきちんと見て、子どもの困り感やつまづきに気づく力 (集住・その他)

スキル: 「つなぐ力」

- 対人関係をうまく築くことができる能力 (分散・教委派遣指導員)
- 専門分野における情報を収集し、それを関係者と共有する力 (分散・その他)
- 多様な支援につなぐ力 (母語支援、ボランティア、先進地域の取り組み、オンライン教材など) (分散・その他)
- 地域、行政、関係機関と連携し、力を借りながら教育活動を行う力 (集住・管理職)
- 保護者と信頼関係を築く力 (分散・教諭)
- 先生と連携が取れる、信頼が取れて、色々な話ができる力 (分散・教委派遣指導員)

態度: 「待つ」力

- 子どもを長い目で見る忍耐力 (集住・教諭)
- 長い目で子どもと関わりをもっていける人 (分散・その他)
- 他の教員等の助言を柔軟に取り入れ、生かす姿勢が大切 (分散・その他)
- 待つ力 (ひと手間をかける) (分散・教育委員会派遣の指導員)
- 冷静さ (感情移入しすぎない) (分散・教育委員会派遣の指導員)
- 柔軟性 (集住・教諭)
- 寛容性 (分散・教育委員会派遣の指導員)
- 長いスパンで見ることが重要 (集住・非常勤講師)

態度: 「受け入れる力」

- 子どもの言語や背景文化を否定するのではなく、受け入れる力 (分散・地域ボランティア)
- 心のケアをすること (分散・地域ボランティア)
- 子どもの困難や大変さなどに寄り添おうという気持ち (集住・管理職)
- カウンセリング・マインド (集住・教諭)
- 文化の違いや子どもの個性を受け止める力が必要 (分散・教諭)
- 子どもを受け入れる力や不安と緊張を理解する力が必要。媒介語なしでもサポートできるような力も大切 (分散・支援団体派遣の支援者)

態度：「進む力」

- 子どもたちの支援をしている人々の存在を知り、そこと連携しようと自分から求めていく力が必要（集住・管理職）
- 日本語指導担当教員としては、具体的に連携が持ってもらえるように担任教員等にアクションを起こしてもらえるような力が必要（分散・指導主事）
- 新しいことに関して学んでみようと思う力（分散・その他）
- 「取り込む」力（新しい情報を取り込む、編入してきた外国人生徒を学級に取り込む）（分散・校長）
- 指導者同士で相互研修ができる場が必要（分散・指導主事）

「する」力を「できる」力にするために

→ 制度としての研修の確立と自己研修力の育成



引用文献

- Byram, M. (1997) *Teaching and Assessing Intercultural Communicative Competence*. Clevedon, UK: Multilingual Matters.
- マイケル・バイラム(2011)「外国語教育から異文化市民の教育へ」『異文化コミュニケーション学への招待』みすず書房.